

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「ともに学び、ともに育つ」多様な教育実践校として、自律した生活習慣を確立し、主体的に課題解決に取り組む力を備えた、やさしくたくましい人材を育成する。

2 中期的目標

1 ステップスクールの教育内容の充実

PDCA サイクルで組織的に取り組む。

ア 国数数理英の基礎科目及び地域連携を活用した総合的な探究の時間について、担当者を中心に定期的に振り返りを実施し、必要に応じて修正を加えながら行う。

※ 学校教育自己診断において、「モジュール授業に関する項目」の肯定的な意見を令和8年度には90%とする。(R3 83.5% R4 86.5% R5 81.9%)

※ 「地域連携を活用した体験的な取組に関する項目」の肯定的な意見を令和8年度には85%以上とする。(新規)

イ 4つの系列科目の内容の充実

※ 学校教育自己診断において、「系列に関する項目」の肯定的な意見を令和8年度には85%以上とする。(R3 72.3% R4 79.9% R5 80.6%)

2 課題を発見し、解決する力やコミュニケーション能力など、社会で生き抜く力を育む。

(1) 学習活動の充実

ア 地域連携を活用した「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。また、そのための環境整備を行う。

※ グループ学習、少人数展開授業、体験活動、新しい教育機器活用等を通して授業力を向上させ、令和8年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.50以上にする。<R6 3.45、R7 3.50、R8 3.55> (R3 3.29 R4 3.33 R5 3.35) また、授業アンケート「生徒意識1」及び「生徒意識2」の平均値3.3以上にする。(R3 3.19 3.21 R4 3.22 3.24 R5 3.19 3.25)

イ 4つの系列(マリンアドベンチャー、アクティブIT、ソーシャルケア、クロスカルチャー)の構築と内容の充実を図る。

ウ 地域連携を活用した体験的な取組を開発する。

(2) 特別活動の充実

体育祭、文化祭、地域と連携する山海人プロジェクト等の全員参加型行事、地域活動等の希望参加型行事を実施する。

※令和8年度においても全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭、文化祭の事後アンケートにおける肯定意見75%以上を維持する。(R3 75%、R4 82.1%、R5 83.5%) また、国際交流、地域活動等の希望者参加型行事の事後アンケート等ふりかえりにおける肯定意見80%以上を維持する。

(3) キャリア教育の充実

ア 個々の生徒の状況に応じた支援を行う「寄り添う」、多角的なアプローチによる支援を行う「粘り強い」生徒指導の実践

※学校教育自己診断における「高校にはいろいろななまきりがあるけれど、自分のためになっていると思う」の肯定的な意見を70%以上にする。(R3 62.5% R4 66.5% R5 70.1%)

イ 人権教育の推進

※学校教育自己診断における「障がいのある人や外国の人と交流することで、ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」を75%にする。(R3 68.6% R4 73.6% R5 74.6%)

ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援

※学校教育自己診断における「地域連携を活用した体験的な取組は将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う」の肯定的意見について80%以上をめざす。

エ 望ましい職業観の育成と進路実現

※系統的なキャリア教育により、自尊感情を育成し卒業時における進路未決定者を3人以内にする。(R3 15人 R4 8人 R5 4人)

オ 国際感覚の育成

※海外研修の実施等、国際交流の推進を図る。

(4) インクルーシブ教育に向けた取組の充実

ア 高校生活支援カードの活用促進のため、カードを活用した個別の教育支援計画の作成、ケース会議の開催等、障がいの有無にかかわらず困り感のある生徒の支援を行う。(高校生活支援カードの提出100%を維持)

イ 授業のユニバーサルデザイン化により基礎的環境整備を図る。

※令和8年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.40以上にする。(R3 3.29 R4 3.33 R5 3.35)

ウ LHR や総合的な探究の時間を活用して、互いに違いを認め合い、共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。

※令和8年度において、学校教育自己診断の「障がいのある人や外国の人と交流することで、ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」を78%にする。(R3 68.6% R4 73.6% R5 74.6%)

エ 支援教育体制の整備

多様な教育実践校として、より生徒の教育的ニーズに応じた既成概念にとらわれないユニークなカリキュラムを考える。

※多様な学び方に対応するための環境整備や集団づくり、体験学習を通して、生徒の自尊感情を高め、中途退学や不登校を防止する。

(5) 通級指導教室の充実

ア 先駆的な取組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る。

3 人材の育成と管理

ア 教員全体の資質向上のため、授業改善、組織運営を中心に、支援教育、教育相談、人権問題、社会人教育等、教職員からの要望に応じたテーマで講演会や研修を実施する。※ミドルリーダーや外部講師による教員研修を年間20回実施する。

イ 働き方改革の一環として、会議資料のペーパーレス化を進め、会議等の効率化を図る。

※月当たり時間外勤務45時間以上の教職員を5人以内にする。

4 地域連携と広報活動

ア 地域の小中学校への、点字等の本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。

イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。※参加依頼のある地域行事に生徒会や部活動、有志が5団体以上参加する。

ウ 学校の取組を発信する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 6 年 12 月実施]	学校運営協議会からの意見
<p>【 学校生活全般 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の「学校へ行くのが楽しい」という回答は大幅に増加し、80.9%に達した。特に1年生は85.0%と非常に高い値を示している。文化祭や体育祭などの行事の充実・活性化（肯定的評価はそれぞれ76.7%、75.7%、いずれも10%近く上昇）、地域連携を取り入れた体験的な取り組み（肯定的評価88.7%）などが要因の一つであると考えられる。しかし裏を返せば、約20%の生徒が「楽しくない」と回答しており、この点を真摯に受け止め、今後の教育活動をさらに充実させる必要がある。 保護者の「子どもは、岬高校へ行くのを楽しみにしている。」は71.7%と上がった。生徒の上昇率と相関関係があり、家でも学校のことが共通の話題になっていると思われる。 生徒の「ステップスクール（1年生）、エンパワメントスクール（2,3年生）に来てよかった。」は86.5%と上がった。これは、オープンスクールや学校説明会などで岬高校の取り組みを理解した上で、入学してくれる生徒が多くなってきていること、また、実際に入学してから充実した学校生活を送っていることが要因だと考える。 <p>【 学習指導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の「1年生モジュール授業（国数英の毎日30分授業）に関する項目」の肯定的評価は88.5%となり、高水準を維持している。 生徒の「2,3年生の系列・コースの科目（授業）に関する項目」の肯定的評価は88.6%と上昇した。地域と連携した新たな取り組みも要因の一つと考える。 生徒の「コンピュータや電子黒板などの視聴覚機器が授業でよく使われている。」の肯定的評価は80.4%と上昇し、「1人1台端末を積極的に活用している。」の肯定的評価は85.3%と30%近く上昇した。生徒にとって「分かる授業」をめざして各教員が積極的にこれらの機器を活用した結果だと考える。 <p>【 進路指導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の「岬高校では、進路についての学習をしっかりと行ってくれる」という回答は大幅に増加し、89.9%に達した。これは、3年間を通じた進路指導（1年次「知る」、2年次「探る」、3年次「叶える」）のもとで、校内外で様々な進路に関する取り組みを行った結果だと考えられる。 保護者の「岬高校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。」の肯定的評価75.8%、「岬高校は、進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている。」の肯定的評価71.9%といずれも昨年度よりやや上昇したものの、一昨年度の水準には達していない。引き続き保護者対象の進路行事や進路に関する情報を発信していきたい。 <p>【 生徒指導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の「岬高校にはいろいろきまりがあつて厳しいけれど、自分のためになっていると思う。」の肯定的評価は78.2%と上昇した。また、「遅刻指導があるので、自分自身の遅刻が減っていると思う。」も74.1%と大幅に上昇した。令和6年度からは頭髮の多様性を認めているが、「寄り添い」「粘り強い」生徒指導が、教員と生徒との間に良好な関係を築いているものと思われる。 保護者の「岬高校の先生は、子どものまちがった行動を厳しく指導してくれる。」は70.4%と7%近く減少した。これは頭髮の多様性を認めたこと、また、「厳しく」というよりは「寄り添い」「粘り強い」生徒指導を行っていることが要因だと考える。今後も保護者と教員が協力・連携し、時代にあった生徒指導を行っていく。 生徒の「岬高校の先生は、自分が努力したことを認めてくれたり、ほめてくれたりする。」の肯定的評価は88.1%と大幅に上昇した。何事にも前向きに頑張る生徒が増えたこと、そして、担任は勿論のこと、その他多くの教員で生徒たちを見ていることが要因だと考える。 <p>【 支援体制 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の「岬高校ではいじめやそれに近いことが起こったときにきちんと対応してくれる。」の肯定的評価は75.4%と上昇した。引き続き、いじめ事案の未然防止、また、事案が起こった際の迅速な対応ができる組織作りに尽力していきたい。 生徒の「担任の先生以外にも、保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいる。」は72.8%と10%上昇した。これは、各教職員が積極的に生徒に関わっていること、また、スクールカウンセラーの常駐、スクールソーシャルワーカーやキャリア教育コーディネーターの来校回数が府下最多になり、外部専門人材の方々と教員が連携して生徒対応に当たっていることが要因だと考える。 <p>【 部活動 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の「部活動に入っていますか？」において「1年からずっと」「途中から今まで」を合わせ34.9%とほぼ例年通りの水準である。部活動を活性化するための取り組みを考えていく必要がある。 <p>【 施設・設備面 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の「学校図書館を利用していますか？」において「利用していない」が71.8%非常に高い。現在の生徒が求めている書籍、図書館の開放時間、図書館内の設備面などを見直し、利用率が上がるような工夫をしたい。 <p>【 PTA 活動 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の「PTA活動に参加したことがある。」の肯定的評価は15.6%とコロナ以降は低い値になっている。文化祭や体育祭、PTA主催のスポーツ大会に加え、次年度からは本格的に社会見学会を復活させる予定であり、これらの取り組みに参加していただけるよう、情報発信を行ってきたい。 	<p>第1回（5/24）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業に関して <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」や「系列の授業」ではどのような取り組みを行っているのか。 ○生徒指導に関して <ul style="list-style-type: none"> ・昔は3年生が下級生の服装指導などを行っていたが、今は教員がすべて行っているため大変だと感じる。 ・家庭との連携に関してはどうか。 ・岬高校の教員は密に生徒、保護者に関わってくれる。様々なご家庭があると思うが、粘り強く関わってほしい。教員からも保護者に対して投げかけをしてほしい。 ○通級指導に関して <ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービスにて運動療育を行っているが、ほとんどの子どもたちは最初は意欲的にしない。それを意欲的にするために、最初はこっちのペースで巻き込んで、知らぬ間に運動しているようにする。それがだんだん自主的にできるようになってくる。 ○転退学に関して <ul style="list-style-type: none"> ・転退学者が多い要因は何か。 ・転退学者を少なくしていくためには何が必要か。 <p>第2回（10/9）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業見学・校内見学を実施し、その後の意見 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの時代とは雰囲気が違うと感じた。生徒が自由に発言していた。⇒生徒から意見を引き出すよう意識して授業している教員が多い。 ・2,3年前に見学した時とはガラッと変わっていると感じた。生徒を良く見ているし、興味をかき立てる接し方をしていると感じた。ICTを活用した授業で、先生の話聞く、黒板を見る、PCを触る、の切り替えがしやすいと感じた。 ・生徒に応じた授業をされていると感じた。 ・休み時間から見学していたが、生徒がトゲトゲしていなくて、しっとりしているように感じた。休み時間は生徒が発散する時間だが、先生や大人が廊下を歩いている、「誰来たねん!」という雰囲気にはなっていなかった。普段からいろんな人と関わることが多くなってきているからなのかなあという印象。生徒から声をかけてくれるし、こちらから声をかけてもたぶん素直に受けてくれそう。学校全体が、この人達と居ても安心できるという空気感があった。 ・若い先生が多いが、子ども達と対話しようと努力しているのが伝わってきた。若い先生方は、まだまだこれから苦労すると思うが、一つクリアすれば子どもたちはどんどん興味をもってくれるようになるのではないかな。 ・1クラスの人数が少なく良かった。今年の1月にも授業を見学し、その時と大きくは変わっていないが、子ども達の表情が少し柔らかくなったように感じた。 ・学校としては、もっと生徒数が増えて欲しいが、授業は少人数が良い。生徒が増えて、教員の数が増えて、少人数でずっと授業ができるのが理想。 ・教員の平均年齢は約35歳。昔からそうだが、岬高校は経験年数の浅い教員を育てるとするのも使命の一つだと思う。 <p>第3回（1/31）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書室の利活用に関して <ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業などで図書室は使っているのか。 ・中学校では週1回、教科の授業で図書室を使っているやめ、生徒にとっては身近である。一度、岬中学校の図書室を見学に行ってみようか。 ○就職について <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、内定率が上がった要因は何か。 ○令和7年度学校経営計画（案）について <ul style="list-style-type: none"> ・「めざす学校像」をなぜ変更したのか。 ・中期的目標の2「社会で生き抜く力」を「社会で生き抜き社会をよくする力」と変更した方がよいのではないかな。 ・中期的目標の2「課題発見解決能力」「コミュニケーション能力」「社会で生き抜く力」の育成と書かれているが、「授業の中でこれらの力を育むのは当然として」と標記した方がよいのではないかな。

府立岬高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 ステップ スクールの 教育内容の 充実	PDCA サイクルで組織的に取り組む ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイム・地域連携を活用した体験的な取組について、担当者を中心に定期的に振り返りを行う イ 系列科目の内容の充実	ア 担当者を中心に、振り返りの会議を定期的に開催する また、次年度以降の選択科目等について、生徒の状況を踏まえた修正を行う イ 定期考査ごとに、生徒の振り返りを行う	ア 学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」「『エンパワメントタイム』に関する項目」「地域連携を活用した体験的な取組に関する項目」の肯定的な意見の割合をそれぞれ 80%、70%、80%以上を維持するとともに、88%、83%、85%に近づける[81.9%・78.4%・ー] イ 学校教育自己診断において、「系列に関する項目」の肯定的な意見を 80%以上とする[80.6%]	ア 「モジュール授業」88.5%、「エンパワメントタイム」83.8%、「地域連携」88.7%と肯定的意見が非常に高い。今後も維持していく。(◎) イ 系列に関する項目も非常に高い。 88.6% (◎)
2 (1) 学習活動の 充実	ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する イ 4つのコースの内容を生徒にとって、より魅力的なものにする ウ 特色ある学校設定の授業を実施する	ア ①学習環境を整え学習目標を明示して授業を始める ②身近な教材を取り上げ生徒の興味関心を引く。 ③メリハリ・テンポ・リズムのある授業を心がける ④考える・説明を聞く・黒板を写すなどを明確に分ける ⑤具体的にほめる 以上の5項目を教員が目標とする 放課後等に生徒が自主的に学習できる環境整備や取組を行う イ 各コースで従前と異なる取組みを検討する ウ 地域資源や環境を活用した魅力的な体験型授業を実施する	ア 生徒向け授業アンケート「授業展開」の項目において、全生徒の評価の平均が4段階中3.30以上を維持する[3.36] また、授業アンケート「生徒意識1」「生徒意識2」の平均が3.2以上を維持する[3.19 3.25] イ 各コースで新しい取組みを1つ以上行う [アクティブ2回、マリン2回、ソーシャル2回、クロスカルチャー3回] ウ すべての教科で新たな取組みを1つ以上の実施 [数学のみ]	ア 「授業展開」3.45 (◎) 「生徒意識1」3.40 (◎) 「生徒意識2」3.38 (◎) いずれも過去5年間で最も高い値であった。引き続き、授業の充実に向けて取り組む。 イ アクティブ3回(地域の日本語学校の留学生と畑での交流、羽衣国際大と連携した映像制作等) マリン7回(きしわだ自然資料館と連携したウミヒルモ観察実習、自作した竹炭を用いた飯盒炊爨等) ソーシャル4回(岬町と連携した認知症サポーターの養成講座、大阪健康福祉短期大学による出前授業等) クロスカルチャー3回(留学生とクリケット交流や調理実習交流等) (◎) ウ すべての教科で地域資源や環境を活用した体験型授業は実施できなかったが、総合的な探究の時間や理科、家庭科などで行うことができた。(△)
2 (2) 特別活動の 充実	体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事を実施	様々な行事の企画運営に、生徒会や希望生徒を参加させ、生徒が興味関心を持って取り組めるよう工夫する 山海人プロジェクトの内容について、雨天時のプログラム等を検討する 広報誌等に活動を掲載してもらうなど、地域等への発信について検討する	・全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭、文化祭の事後のアンケートにおける肯定意見70%以上を維持する [92.7%、ー、83.7%] ・希望者参加型行事の事後アンケート等振り返りにおける肯定意見を80%以上維持する [100%] ・広報誌などへの掲載回数10回以上 [8回]	・山海人P 96.8% (◎) 体育祭 95.7% (◎) 文化祭 95.4% (◎) (参加者の肯定的意見) ・大阪公立大学留学生との交流 100% (◎) ・ケーブルテレビ番組 5回、自治体日より 22回 (◎)
2 (3) キャリア教育の 充実	ア 「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の実践 イ 人権教育の推進 ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援 エ 望ましい職業観の育成と進路実現 オ 国際感覚の育成	ア 多様な生徒の状況に応じた生徒支援について学校運営協議会で聞く イ LHR や総合的な探究の時間に、人権について学び、考える機会を設け、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワーク等を行う ウ 職業生活を営むために必要となるソーシャルスキル等の習得をめざす授業を実施し、課題のある生徒を支援する。 エ 1年次から進路実現を目標としたHRを計画し、講演や施設見学などを実施し、職業観の育成に努める。 オ 海外異文化との交流を実施し、交流内容の充実を図る	ア 生徒のマナーについての学校運営協議会の意見を校外での生徒指導に反映させ、通学路等での指導を継続。自尊感情の観点を取り入れ、生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の肯定的な意見70%以上を維持する[70.1%] イ 生徒向け学校教育自己診断における「障がいのある人や外国の人と交流することで、ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」を75%以上にする[74.6%] ウ・エ 卒業時における進路未決定者を3人以下にする [4名] オ 年に6回以上海外異文化との交流を行う [4回]	ア 「高校にはいろいろきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」78.2% (◎) イ 「障がいのある人や外国の人と交流することで、ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」84.7% (◎) ウ・エ 未定者 5名 (△) オ 外国人技能実習生・留学生との交流8回(ベトナム・ミャンマー・バングラデシュ等) (○)

府立岬高等学校

2 (4) インクルーシブ教育に向けた取組みの充実	ア 高校生活支援カードの活用 イ 授業のユニバーサルデザイン化 ウ 共に生きる集団づくりを図る活動を実施する エ 支援教育体制の充実	ア 入学時に新入生全員に作成し、生徒の状況を年度当初に共有 イ 支援教育の観点により、2(1)の授業づくりに取り組む ウ LHRや総合的な探究の時間に、人権について学び、考える機会を設け、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワーク等を行う(再掲) エ 多様な学び方に対応するための環境整備等の取組みにより、生徒の自尊感情を高めることで、中途退学や不登校を防止する	ア 高校生活支援カードを活用し、必要な生徒に個別の教育支援計画を作成する。[作成率100%] 個別の教育支援計画作成ノウハウを学年・教科のOJTにより進める。 イ・ウ 2(1)イ・ウと同じ エ 生徒が自分の得意な学び方が「わかる」機会として、地域連携を活用した活動等を年に25回以上開催し、中途転退学率を10%以下にする。[18回、16.1%]	ア 個別の教育支援計画作成(100%) (○) エ 地域連携を活用した活動等を年25回以上開催した。(○) 中途転退学率 5.5% (◎)
2 (5) 通級指導教室の充実	ア 先駆的な取組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る	ア 入級生徒に対して、自尊感情を評価するためのアンケートを実施 自立活動において、先駆的な取り組みを行う 通級指導室の環境整備を行う	ア 学期等の区切り毎にアンケートを実施し自尊感情の変化を把握する 地域連携による先駆的な取組みを行う [20回以上実施] 特性に応じた環境整備を行う [エアコン設置]	ア 入級生徒に対し自尊感情アンケートを実施せず。(△) 外部講師による取組みは今年度実施せず。(△) 代わりに教員が各自の得意・特技を生かして通級教室の授業を行った。(○) エアコンは今年度新たに設置せず。(△)
3 人材の育成と管理	ア 教員研修の充実 イ 働き方改革の推進	ア ミドルリーダーや外部講師により、授業改善、組織運営を中心とする研修を行う イ 会議資料のペーパーレス化、事前配信により業務の効率化を図る	ア ミドルリーダーや外部講師等による教員研修を年間20回以上実施する [20回] イ 月当たり時間外勤務45時間以上の教職員を6人以内にする [7.7人]	ア ミドルリーダーによる初任者に対する校内研修を精選し回数を減らした。14回 (△) イ 会議資料のペーパーレス化、一斉定時退庁日の周知を行った。 月当たり 4.1人 (◎)
4 地域連携と広報活動	ア 地域の小学校への、点字等本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどアウトプットの機会を増やす。 イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する ウ 学校の取組みを発信していく	ア 生徒が主体的に地域の学校や施設に出向き、学んだことを伝える。 イ 参加依頼のある岬町内のつつじ祭り、教育フェスタ等の地域行事に生徒会や部活動、有志が参加する ウ 特色ある取組みの広報を行う	ア 出前授業等の機会を増やす [3件実施] イ 参加依頼のある地域行事に生徒会や部活動、有志が10団体以上参加する [延べ8団体] ウ 従前の学校説明会に加え、クラブ体験会を行い、参加者の事後アンケートの肯定的意見の割合95%以上を維持する。[97%]	ア 3件実施(保育園、小学校、高齢者施設) (△) イ 延べ17団体が参加(スポゴミ、つつじ祭り、夏祭り、留学生ウォークラリー、ライオンズフェスタ、みさきの光宴、ビーチサッカー、子ども食堂等) (◎) ウ 9月、11月、12月の3回オープンスクール実施し特色ある取組みの広報を行った。(○)今年度クラブ体験会は実施せず。(△)